

■ 掲示板

□ 国内外の関連会議情報

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの中止や延期が相次いでいます。
ご参加を予定している場合は、主催元のホームページ等で最新の情報をお確かめ下さい。

開催期間	行 事 名	開催場所	関連ウェブページ
2020 年 11/19-21	2020 年日本表面真空学会学術講演会	オンライン	https://www.jvss.jp/
2021 年 2/25-3/3	ISBA20—International School on Beam dynamics and Accelerator technology	広島国際プラザ（広島県東広島市）	https://conference-indico.kek.jp/event/115/
5/23-28	IPAC21—The 12th International Particle Accelerator Conference 2021	Foz do Iguaçu, Brazil	http://www.ipac21.org/
6/7-11	NP2020—Nuclear Photonics 2020	倉敷アイビースクエア（岡山県倉敷市）	http://www.photon.osaka-u.ac.jp/NP2020Kurashiki/index.html
8/9-11	第 18 回日本加速器学会年会 (PASJ2021)	群馬県コンベンション施設 G メッセ群馬	
10/3-8	WAO2021—The 12th Workshop on Accelerator Operations	Barcelona, Spain	https://www.wao2020.com/
10/16-22	ICALEPCS2021—The 18th International Conference on Accelerator and Large Experimental Physics Control System	Shanghai, China	
11/28-12/2	ISSS-9—The 9th International Symposium on Surface Science	サンポート高松（サンポートホール高松&かがわ国際会議場）（香川県高松市）	https://www.jvss.jp/iss9/
2022 年 6/12-17	IPAC22—The 13th International Particle Accelerator Conference 2022	Bangkok, Thailand	http://www.ipac22.org/
8/28-9/2	LINAC2020—The 30th LINAC Conference	Liverpool, UK	http://linac2020.org/
2023 年 5/7-12	IPAC23—The 14th International Particle Accelerator Conference 2023	Venice Lido, Italia	

■会告

■第31回日本加速器学会評議員会議事録

日時：2020年8月22日(土)15:00~17:00

場所：ウェブ会議 (Webex)

出席者：

羽島良一(会長/量子科学技術研究開発機構), 宮本 篤(広報幹事/評議員/東芝エネルギーシステムズ(株)), 柏木 茂(編集幹事/評議員/東北大学), 加藤龍好(庶務幹事/高エネルギー加速器研究機構), 仲井浩孝(行事幹事/高エネルギー加速器研究機構), 長谷川和男(会計幹事/量子科学技術研究開発機構), 岩下芳久(京都大学), 大垣英明(京都大学), 帯名 崇(高エネルギー加速器研究機構), 加藤政博(広島大学/分子科学研究所), 上垣外修一(理化学研究所), 金正倫計(日本原子力研究開発機構 J-PARC センター), 黒田隆之助(産業技術総合研究所), 小磯晴代(高エネルギー加速器研究機構), 小関 忠(高エネルギー加速器研究機構), 小林幸則(高エネルギー加速器研究機構), 阪井寛志(高エネルギー加速器研究機構), 坂上和之(東京大学), 佐藤潔和(東芝エネルギーシステムズ株式会社), 白井敏之(量子科学技術研究開発機構), 徳地 明(株式会社パルスパワー技術研究所), 飛山真理(高エネルギー加速器研究機構), 中村 剛(高エネルギー加速器研究機構), 西森信行(量子科学技術研究開発機構), 林崎規託(東京工業大学), 早野仁司(高エネルギー加速器研究機構), 古川和朗(高エネルギー加速器研究機構), 増澤美佳(高エネルギー加速器研究機構), 湯城 磨(スカンジノバ・システムズ株式会社), 鷲尾方一(早稲田大学)

議 事：

0. Webex 会議にて開催し, 音声に問題なく議事進行に支障がないことを確認した。また, 定足数を満たしていることの確認が行われた。

1. 宮本広報・WEB 幹事より, 広報委員会報告がなされた。

委員メンバーに変更はなく, 通常活動として会議情報等の WEB 更新をしているが, 依然として感染症蔓延の問題があり, 会議開催情報のページで中止や延期があることが説明された。

第17回年会のオンライン開催にともない, プ

ログラム集ならびに講演・展示関連は国際文献社の用意するページで行うことになった。年会プロシーディングスの編集作業は, 例年は発表者の有志に依頼し現地説明を行っているが, 今回は経験者が多いこともあり, 資料のメール送付にて説明に代える予定である。

オーラルヒストリー編纂作業は編集作業にかなり時間がかかる見込みであり, 第2回公開分は年会後に作業を進める。

2. 柏木編集幹事より, 学会誌編集と刊行について報告がなされた。

編集委員に交代はなく, 発行も多少の遅れはあるが, おおむね順調である。編集作業に余裕を持たせるため18巻1号より原稿締め切りを1ヶ月早めることになった。第17巻4号の特集は「大強度不安定核ビーム」で進めている。

学会誌のバックナンバーの公開後, 記事ダウンロード数について確認しているが, 昨年よりも大幅にダウンロード数自体が増えている傾向がみられる。上位半分程度は昨年も上位になっていた記事が引き続き参照されていた。

学会誌記事については, 今後 J-STAGE への登載を検討しており, 初期費用5,000円, 登載手数料が1号につき35,000円であり, 国際文献社への委託前に編集された分は, 登載料が多少増額の見込みである。

そのほか, 学会誌広告が減少傾向にあるため, 賛助会員等への呼びかけが依頼された。

白井評議員: J-STAGE 検討は何を検討対象としているか。登載自体は経費も許容範囲であり, 問題ないと思う。

柏木編集幹事: 年会プロシーディングスを対象とするか等を検討しており, 学会誌分については登載の方針である。

白井評議員: プロシーディングスは分量も多く大変な作業になると思われるので, とりあえず学会誌のみでよいのではないかと。

柏木編集幹事: 学会誌のみ, 早めに登載できるようにする。登載の審査は2~3ヶ月の見込み。

3. 加藤庶務幹事より, 2020年に加速器学会で共催・協賛・後援した各種関連会議等の説明があった。すべてが感染症の影響により, 中止や延期,

オンライン開催となっている。会員数は個人会員、団体会員ともに微増した。

期間内の入会申込者2名について承認依頼があり、反対無しで承認となった。

今年の学会賞はすでに評議員会で承認、会員に報告の通りで、応募4件に対し、奨励賞に久保毅幸氏 (KEK)、技術貢献賞に方志高氏 (KEK)、杉村高志氏 (KEK)、佐藤将春氏 (KEK)、特別功労賞に土屋将夫氏 (金属技研株式会社) となった。

ほか、学会賞等選考委員会で選考対象となる外部団体への推薦について、学生対象の「日本学術振興会 育志賞」が応募無し、「東レ科学振興会 東レ科学技術賞、東レ科学技術研究助成」が科学技術賞に1件、研究助成に3件応募で選考中。その他団体の研究助成について募集元に依頼中であるが、感染症問題により審議が進んでいないとの連絡があった。

軍事研究規制等に関するタスクフォースについては、6月4日のWEB会議およびメール審議にて年会会期中の特別セッションの内容を検討し、羽島会長、浦川委員、栗木委員がTFでまとめた論点の整理と、会員からの意見紹介、今後の展開について説明を担当することになった。

中性子科学会との連携タスクフォースについては岩下氏、内藤氏からの報告通り、引き続き協力要請に対応中である。

今年の第18回総会はZoomのウェビナーを利用した初のオンライン開催となる。出席者確認と議決権行使のため、Google Formを利用する方式の説明があり、承認された。Google Formの議決権行使については、議決権のある会員にそれぞれ個別の認証コードを割り当て、事前にメール配布し、総会中に回答を入力、送信してもらう。数分程度で集計を行い、その場で報告を行う流れとなる。2回以上同じ認証コードで送信された場合は、最初の投票のみ有効とする。また、メールが受け取れなかった等、認証コードが無い場合は投票ができない。集計については公正を期すために評議員から2名が担当することになり、黒田評議員、坂上評議員が対応することが承認された。

坂上評議員：議決権行使に使うGoogle FormのURLは総会中に配信されるのか。

羽島会長：URLの配布は事前に行い、投票受付

は総会中に開始する。

坂上評議員：事前に入力することを防げない？

羽島会長：事前入力を受け付けず、総会の時間帯のみ入力可能とする。総会に出席しない会員が総会の時間中に入力するケースは防げない。また、委任状を出している人には送信しないため、二重の意思表示は防げられる。

白井評議員：会員は委任状の存在を認識しているか。定足数が心配である。

羽島会長：会員数の10分の1で定足数となるので、おそらく足りると思うが、リマインドは予定している。

佐藤評議員：学会賞講演は例年総会後に行っていたが、今年はいつか。

羽島会長：年会の2日目に設定した。

4. 仲井行事幹事より、行事委員会と年会準備状況について報告がなされた。

仲井幹事が行事幹事に就任したことにとともに、担当していた会場・企業展示を清水洋孝氏に交代した。ほか、黒田委員が任期を超過しているが、了承を得て引き続き対応いただいている。

行事委員会としては今回の第17回年会が初のオンライン開催となったことを受けて、実行委員会のサポートを行っており、可能な範囲で国際文献社への委託を進めている。第17回年会はオンライン開催準備のため、開催日を従来の8月上旬から9月2~4日に変更し、口頭発表や講演関連をZoomのウェビナー形式、ポスターや企業展示を会議形式で設定し、現地開催と同じような雰囲気で開催できるよう準備している。特別講演は日程変更により講師の都合がつかず中止、見学会は中止した。講演関連については前回の評議員会で承認の「加速器学会年会・合同セッション、企画セッションおよび特別講演に関する規定」を適用、また、従来は「技術研修会」としていた内容を「企画セッション」として、年会の枠組に収めることにした。このほかに軍事研究規制等に関するTFの企画として、「加速器と安全保障」のテーマで討論を行う。懇親会は年会最終日にオンラインで行うことを検討中である。

オンライン年会では発表を割り当てたWEB会議室で行うため、従来とは逆に、口頭発表は事前のファイル提出は不要となり、一方ポスター発表

では期限の8月26日までにアップロードしない場合は取り下げ扱いとする。ポスターの掲示はWEB会議システムで見やすいよう、7ページ以内のPDFファイルとした。

企業展示は基本的にWEB会議室を1つ割り当てて自由に使っていただくほか、昼にセミナーを行うプランを設定した。最終的に基本プランは19社、セミナープランは2社から申し込みがあった。

年会予算としては、早期登録状況(一般:会員240人・非会員15人、学生:会員33人・非会員16人)からみて、通常年会の75パーセントの見込みと大きなずれは無い。中止となった松山現地開催にかかる支出のうち、展示図面作成等の設営関連作業費11万円は支払いが確定している。会場費2,247,890円は感染症問題に起因するキャンセルのため、全額返金された。企業展示料の減少に加え、オンライン年会専用サイト構築とWEB会議システムのライセンス購入に費用が掛かっているが、オンラインにより会議旅費が減り、当日アルバイト等が不要になったため、収支全体としては100万円ほどの赤字に抑えられる見込みである。状況により、来年度年会準備のための年度内会議費も減少の可能性がある。

また、第2回プログラム委員会での検討結果の説明があった。発表申し込みは全体で296件、年会賞は42件の応募があった。発表については、もしZoomの障害で発表継続ができなくなった場合は、参加費支払い、プロシーディングス提出、発表資料提出を以て発表実績とすること、問い合わせに対応するチャットツールを立ち上げること等を検討し、準備を進めている。ポスター発表は1発表につき1会議室を割り当て、コアタイムも設定した。ほか、発表カテゴリとして、従来のカテゴリへの分類が難しい「極低温用温度計」に関する発表申込があり、今後カテゴリについて検討を行う。年会賞については会期中の表彰をしないため、Google Formでの審査で後日集計、結果発表をする。今回は情報提示の問題により2件の応募をした方が1名いたので、プログラム委員長から連絡し、1件とさせていただいた。口頭発表者が毎年固定化される傾向についてIPACと同様に、全ての発表形式をプログラム委員会で指定すべきか委員会で議論をしたが、現状維持と変更で意見

が拮抗したため、今後も引き続き検討する。

西森評議員: 従来は口頭発表のスライドを公開用に提出いただいていたが、今回はどのようにしているか?

仲井行事幹事: 口頭発表スライドは後日依頼して、提出いただく。ただしポスター発表については事前にアップロードする。

西森評議員: 発表専用ページが8月上旬公開予定となっていたが、まだ入れないように思う。また、プログラムの公開はいつになるか。

仲井行事幹事: 専用ページはほぼ完成しているが確認中で、参加登録した人にはメールでお知らせする。プログラムは作業が遅れており、近日中に公開予定。

黒田評議員(プログラム担当行事委員): アブストラクトは公開済みなのでそこからはどのような発表があるか確認できる。

大垣評議員: 運営上、参加者数が少なすぎたりという問題はないか?

仲井行事幹事: 早期登録時で約300人となっており、大丈夫かと思われる。

湯城評議員: オンライン開催におけるポスターのコアタイムというのは、ポスターの内容説明をすることを想定しているのか、それとも質問があれば回答ができる状態ということか。

仲井行事幹事: どちらでも構わない。

湯城評議員: オンライン開催が初めての試みなので、発表に関するガイド資料が欲しい。

仲井行事幹事: 実行委員会で作成中なので、近いうちに案内できる見込みである。

中村評議員(第17回年会組織委員長): 年会賞については今回は会期後に審査を行う。2件応募された件についてはウェブページでは1件と明示していたが、第1サーキュラーにはそれが示されておらず、年会側の責任である。また、オンラインでの企業展示が初の試みで心配なため、なるべく訪問して活用いただければありがたい。引き続き、仲井行事幹事より2021年度に群馬県高崎市で開催を予定している第18回年会について説明がなされた。当初の計画では会場費260万円で群馬県コンベンション施設Gメッセ群馬で開催を予定していた。本年7月に現地視察した結果、感染症問題が解決しなかった場合、県指導に

より既定収容人数の3分の1程度に制限されるため、適切な距離を保てるよう企業展示、講演の開催場所をGメッセ群馬内のより広い会場に変更する必要が生じることが判明した。この場合の会場費は630万円となる。令和2年度については、県の補助金制度があり、県の指導による会場変更では主催者の費用負担増は免除されるとのことである。令和3年度に同様の制度が設けられるかどうかは、2月の予算確定まで不明である。9月の年会終了後に予約・様子見・キャンセルの判断を行う必要があり、予約の場合は開催1年前に80万円(当初予定の会場設定)の手付金を支払う。感染症問題で使用中止となった場合の手付金は返金されるが、学会側都合となると返金されない。来年の年会をどのようにするか、この評議員会で確定したい。なお、施設見学は群馬大の重粒子線医学研究センターを予定していたが、医療施設に立ち入ることは状況的に難しいとのことである。

白井評議員：ほかの学会での来年以降の学術大会はどのような動向か。手付金が最低80万円必要ということであり、見通しのつかない中での金銭的な負担が心配。

羽島会長：物理学会、原子力学会は現時点で秋はオンライン、春は現地ということになっている。とりあえずは会場を押さえるために感染症を想定しない当初の260万円の3割である手付金80万円は支払う必要があり、感染症原因であれば返金対象となる可能性が高い。

佐藤評議員：補助金が出た場合は260万円で開催できるようだが、2月の県予算が出ないと不明ということか。630万円の3割を支払わなければならない可能性もある？

仲井行事幹事：今の状況であれば630万円の3割を支払わなければならない可能性がある。

佐藤評議員：会場をおさえる必要はあると思う。実行委員の負担が増えてしまうが、現地開催とオンライン開催を併用することは可能か。

黒田評議員：併用の場合はなるべく期間を合わせたいと思うが、どのような内容になるか。全く同じ発表を両方で行う？いつ判断するのか決めておきたい。

徳地評議員：開催時に感染症対策を念頭においたとして、630万円での会場費となると、実現が

難しいのではないかと。当初の260万円で準備し、感染症が落ち着けば現地開催、無理であればキャンセルしてオンライン開催に変更すべきかと思う。

上垣外評議員・佐藤評議員：徳地評議員の意見に同感。

白井評議員：幕張で開催した時は会場費が高かったが、企業展示を多く集めて賄った。今回は感染症問題の見通しが付かない中で出展の依頼をすることになるので、企業展示をあてにするのはリスクが高いと思う。

黒田評議員：260万円の範囲内で開催するという方法もある。その場合、感染症が落ち着かなかった場合は参加人数を制限する等の方法が考えられると思う。

羽島会長：参加人数を絞るのは難しいように思う。2~3月ごろに県予算が確定するので、支出が260万円で広い会場を使用できる可能性もある。

黒田評議員：1月までにプログラム委員会が開催されているので、両方の可能性を検討しながら準備を進める必要がある。

西森評議員：手付金の80万円を支払い、オンライン開催に変更して、返金されない可能性もあると思うが、その場合の運営は大丈夫か。

羽島会長：感染症のために委員会旅費が大幅に減少しているので、やりくりできると思う。

結論として、当初の予定通り260万円の範囲で会場を押さえておき、感染症の状況次第でオンラインに変更することになった。

また、2021年度の年会がオンライン開催になった場合、高崎開催を次年度に繰り越すかどうか羽島会長より提起があり、次年度の開催地での予定がずれてしまうのは会場確保や日程再調整等の観点から現実的に難しいことが確認され、高崎が現地開催不能となった場合でも次年度に移行はしないことになった。

続いて仲井行事幹事より、今後の年会予定について説明がなされた。第19回年会(2022年)について、開催地は北九州市の北九州国際会議場を予定しており、共催機関である九州大学の池田伸夫氏に組織委員長、若狭智嗣氏に実行委員長を依頼した。若狭氏はまだ非会員で、間に合うよう入会予定である。第20回年会(2023年)は、主要機関

を一巡したため、第1回開催地であった日本大学理工学部の船橋キャンパスにて、早川恭史氏に組織委員長、境武志氏に実行委員長を依頼している。プログラム委員長は学内他学部の先生にお願いすることも検討しているが、可能であれば他機関に依頼したい。ここまでの開催予定について、承認された。

第21回年会(2024年)は、今年現地開催ができなかった愛媛県松山市で空きがある7月29日~8月4日を仮予約している。まだ時間があるため、組織委員会で検討を重ね、松山開催で進めることになれば次回以降の評議員会で承認事項としたい。

小関評議員：例年加速器学会は8月上旬に開催しているが、2023年の日大開催がお盆直後になるというのは感染症の影響か、それとも大学カリキュラムの問題か。

仲井行事幹事：大学の都合と思われる。

大垣評議員：京都大学でも8月上旬に授業が入っている。

佐藤評議員：今回できなかった松山で開催するのは歓迎するが、8月上旬の日程の場合、大学関係者が参加できないのではないか。

中村評議員：松山に8月下旬の空き状況を確認する。

第17回年会の実行委員である帯名評議員より、オンライン開催に関して、情報共有のためのアプリケーション(slack, LINE, Twitter)を活用して参加者からの疑問になるべく早急に答えられるよう準備していること、よくある質問を想定したQ&A表を作り、内容を充実させている途中であることが説明され、Q & Aの充実のため、多くの質問を送ってほしいとの要望があった。また、口頭発表については練習期間として8月27日からリハーサルを予定しており、発表予定者には近日中に連絡する。

5. 長谷川会計幹事より、春の評議員会で仮承認済の2019年度決算について、監査を完了したことが報告された。また、法人税と消費税の評価を高橋公認会計士に依頼し、結果的に13万円(法人税均等割7万円、消費税6万円)となり、既に支払いを完了している。法人税と消費税は2020年度の会計で処理する。

2020年度の予算としては4月から変更はない。

すでに判明している部分では、会誌発行費、法人税・消費税、4~6月分の業務委託費が予算より多少抑えられている。委員会旅費は減少し、かわりにWEB会議用のWebexアカウントとして1.3万円が掛かっている。最終的には50万円ほどの赤字になる見込みである。

監事については大熊春夫氏、早川建氏に依頼し、総会で承認を求める。

会費は春の評議員会で検討の通り、正会員を6,000円から8,000円、学生会員を2,000円から3,000円、賛助会員を1口10,000円から12,000円、購読会員を1口10,000円から12,000円に変更することについて、総会で承認を求める。

6. 羽島会長より、他の議題がないか確認があり、特に意見が無かったため散会となった。

■第18回総会議事録

日 時：2020年8月28日13:30~14:40

場 所：Zoom ウェビナー (オンライン開催)

出席会員数：委任状65通、決議投票数98件、投票有効数91件(終了時ログイン数111名)

議 事：

0. 羽島会長より、総会を感染症対策のためオンライン開催とし、評議員で承認の上、Google Formを利用した議決を行う旨の報告がなされた。先に承認が必要な事柄について説明があった。

(承認事項1)

大熊春夫氏、早川建氏に2020年4月1日から2022年3月31日を任期とする監事を依頼することについて、有効投票数91件のうち、承認91件と、委任状65通で合計承認数156となり、承認された。(承認事項2)

2021年からの会費の改定について、正会員を6,000円から8,000円、学生会員を2,000円から3,000円、賛助会員を1口10,000円から12,000円、購読会員を10,000円から12,000円とする提案があった。値上げの背景としては、委託費用増加、年会での会場費用の増加、消費税率上昇、税務申告費用の発生等により、3年続けて収支が赤字となっており、今後も年会の現地中止による予定外の出費や、選挙システム・年会システムの委託をする場合の費用、会員数減少の可能性が見込まれる等、赤字傾向と予想される。執行部では引き続

き経費削減の努力を続けるが、今後も長きにわたって学会活動を継続し、さらに発展するためには財政基盤の強化を図りたい。

有効投票数91件のうち、承認89件、否認2件、委任状65通で合計承認数154となり、承認された。会員：今日 Zoom を利用した WEB 開催を行ったが、今後は WEB 開催と現地開催のどちらが安価に開催できるのか？

羽島会長：現地開催の場合、会場費は高いが企業展示に多く賛助いただいております、その分収入も多い。今回の WEB 開催は、現時点で赤字の見通しである。

会員：2,000 円の値上げで充分なのか？

羽島会長：他学会ではより高額な会費を設定していることも多いが、加速器学会は会誌が年4冊であることを考え、検討の結果8,000 円程度であれば妥当という結論になった。

会員：会員数にかかわらず固定でかかる分と、会員数に応じて変わる経費の比率は？

羽島会長：回答が難しい。会員数に応じて支出も増えているが、固定費も増加している。いずれにせよ、オンライン会議などの経費削減は出来る範囲で続けたい。

会員：収入について、会員が2倍でも会費収入が2倍になっていないのはなぜか。

羽島会長：賛助会員の会費比率が大きいため、会員増加でも2倍にはならない。

1. 宮本広報幹事より、広報ウェブ幹事報告がなされた。委員メンバーに変更はなく、通常活動として会議情報等の WEB 更新をしているが、依然として感染症蔓延の問題があり、会議開催情報のページで中止や延期があるため、情報があればお寄せいただきたい。

第17回年会のオンライン開催にともない、プログラム集ならびに講演・展示関連は国際文献社の用意するページで行うことになった。年会プロシーディングスの編集作業は、例年は発表者の有志に依頼し現地説明を行っているが、今回は経験者が多いこともあり、資料のメール送付にて説明に代える予定である。

学会 HP では加速器施設や加速器分野の大学等を紹介しているが、近年の組織改編等により、リンク切れが多くなってしまっているため、情報を

お寄せいただきたい。

オーラルヒストリーはシニア世代の研究者、技術者の経験を記録に残すためのページである。2回分の聞き取り後、1回分は WEB 掲載まで行ったが、2回目は準備中。今後の予定としては、会員へのアンケートや、編纂作業への協力者募集を行いたい。

マイページと学会誌バックナンバー閲覧ページ、年会発表登録ページについては将来的に認証を統合できるよう準備している。

2. 柏木編集幹事が業務の都合により参加できず、羽島会長より代理で編集幹事報告が行われた。来年度学会誌18巻1号より原稿締め切りを1ヶ月早め、編集の時間を確保する。17巻4号の特集は「大強度不安定核ビーム」で進めている。

学会誌記事のダウンロード数としては、前回と半分程度が同じ記事となるが、新しく大量にダウンロードされているものもあり、学会内外から参照いただいているものと思われる。ほか、学会誌広告が減少傾向となっているため、企業の方にはご検討いただきたい。

3. 加藤庶務幹事より、庶務幹事報告がなされた。2019年および2020年に加速器学会で協賛・後援した各種関連会議等の説明があった。2020年度はすべてが感染症の影響により、中止や延期、オンライン開催となっている。会員数は正会員、賛助・購読会員ともに微増した。一覽の時点より増減があり、現在の会員数は941名である。

京大の岩下氏と KEK の内藤氏を中心とした中性子連携タスクフォースでは、マスタープラン2020に提出した「中性子施設ネットワーク」が学術大型研究計画(区分I)として選定された。軍事研究規制等に関するタスクフォースについては、6月4日の WEB 会議およびメール審議にて年会会期中の特別セッションの内容を検討し、羽島会長、浦川委員、栗木委員が TF でまとめた論点の整理と、会員からの意見紹介、今後の展開について説明を担当することになった。また、8月31日までアンケートを行っているため、意見をお寄せいただきたい。

学会賞等選考委員会で選考対象となる外部団体への推薦について、学生対象の「日本学術振興会育志賞」が応募無し、「東レ科学振興会 東レ科学

技術賞，東レ科学技術研究助成」が科学技術賞に1件，研究助成に3件応募で選考中である。

4. 仲井行事幹事より，行事委員会と年会準備状況について報告がなされた。

仲井幹事が行事幹事に就任したことにとともに，担当していた会場・企業展示を清水洋孝氏に交代した。ほか，黒田委員が任期を超過しているが，了承を得て引き続き対応いただいている。

続いて，第17回年会を松山開催で予定していたが，感染症対策によりオンライン開催に変更し，第31回評議員会で承認を受け，実行委員を中心に準備を行っている旨の報告があった。発表申し込みは297件，合同セッションは4件で，ポスターは現地開催と同じくコアタイムを設定することにした。事前登録期間の申込数としては304名となっているほか，企業展示は基本プラン19社，昼食時間を利用したセミナープランを3社にお申込みいただいた。

第18回年会は，群馬県高崎市にて，2021年8月9日から11日まで開催し，量子科学技術研究開発機構，群馬大学に共催いただける予定である。組織委員長は量研高崎の齋藤勇一氏，実行委員長は同じく倉島俊氏，プログラム委員長は群馬大学の神谷富裕氏にお願いした。現時点では現地開催を予定しているが，感染症の状況によってはオンライン開催も想定して進める。

第19回年会は九州大学に2022年8月8日から10日の日程で内諾をいただいた。組織委員長は九州大学の池田伸夫氏，実行委員長は同じく若狭智嗣氏に依頼する。

今年のプロシーディングス提出期限は9月1日であり，期限までに提出いただきたい。

5. 長谷川会計幹事より，2019年度会計報告があった。会費収入は予算より20万円ほど多く，主に賛助会員分が増加した。ほか，別刷りの件数が増えたことでその分の収入と印刷費が少し増え，広告収入予算1,750,000円から1,129,240円と減少している。第16回年会は収支ともに予算より多く，ほぼバランスした。印刷費は予算より若干増加して4,943,872円，会議室料と委員会旅費は感染症対策により大幅に予算を下回った。これにより，当初予算では2,516,926円の赤字の予定だったが，16,423円の赤字に収まった。決算につ

いては5月16日に大熊春夫氏，早川建氏による監査があり，承認を受けた。

2020年度の予算としては，収入24,146,000円，支出24,655,300円で50万ほどの赤字を見込んでいる。年会の開催方法等によっては変動の可能性がある。

■細則の改訂

第18回総会で決議された会費の改定に合わせて，細則第6条を以下の通り改訂します。評議員会の承認を得ましたので，2020年10月1日より施行します。

(改訂前)

第6条 正会員の会費は，年額6,000円とする。ただし，学生の会費は，年額2,000円とする。賛助会員の会費は，年額一口10,000円，五口以上とする。購読会員の会費は，年額10,000円とする。名誉会員の会費は，これを免除する。

(改訂後)

第6条 正会員の会費は，年額8,000円とする。ただし，学生の会費は，年額3,000円とする。賛助会員の会費は，年額一口12,000円，五口以上とする。購読会員の会費は，年額12,000円とする。名誉会員の会費は，これを免除する。

■会員移動 (2020年7月～8月)

〔一般会員入会〕

西 隆博 (理化学研究所)

宮田 祐輔 (菱電商事(株))

小笠原 舜斗 (高エネルギー加速器研究機構)

〔学生会員入会〕

加藤 大典 (福井大学)

寺田 健人 (東北大学)

〔個人会員退会〕

7名

■訃報 (2020年6月～8月)

以下の会員が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

工藤 治夫

■編集後記

編集委員は2018年に広報幹事になってから務めさせていただいております。これまでは学会の最も重要な刊行物と言えるこの学会誌と、そのウェブ公開を担当する広報委員会の間を取り持つような立ち位置で専ら活動してまいりました。その私がこの度初めて記事を担当させていただくことになった縁で、この編集後記も担当することとなりました。

本号には、私が僅かばかりですが機器製造の側で携わった山形大学の東日本重粒子センターの話題や、診断用のものから治療用へと広がりを見せつつある加速器によるRI製造の話題もあり、基礎科学の研究用だけではない加速器の応用範囲の

広さを感じられる号となっていると思います。

広報委員会としては様々なコンテンツを載せるフレームを提供していますが、そのコンテンツを創り出すのが学会誌であれば編集委員会です。委員会の場で毎回感じていることなのですが、編集幹事をはじめとする編集委員の方々のコンテンツを生み出す企画力やアイデアの豊富さに只々感服しています。そのような編集委員会に、微力ながらではありますが貢献する所存ですので、よろしく願いいたします。

東芝エネルギーシステムズ株式会社
宮本 篤

加速器学会会員の皆様へ

2021年度(2021年4月～2022年3月)の日本加速器学会費について

加速器学会の会計年度は4月から翌年3月までとなっており、会費のお支払いは前納制です。
2020年8月28日の総会決議に基づき、2021年度より以下の通り会費が変更となりましたので、
会員の皆様にはご負担をおかけしますが、ご理解の程お願いいたします。

(2020年度までの会費)

正会員	6,000円	学生会員	2,000円
賛助会員	1口10,000円	購読会員	10,000円

(2021年度以降の会費)

正会員	8,000円	学生会員	3,000円
賛助会員	1口12,000円	購読会員	12,000円

【個人会員のご請求について】

1. 会費支払い方法を口座引落でご登録の場合

ご指定の口座から振り替えさせていただきます。振替日は下記の通りですので、期日までに口座のご確認をお願いいたします。

2021年1月25日(月)

2. 引落口座を登録していない場合

1月に郵便払込用紙をお送りいたします。お手元に届きましたら、お早めのお支払いをお願いいたします。

【賛助会員、購読会員のご請求について】

賛助会員は12月ごろ、購読会員は年度最終号の発行後にご請求させていただきます。

日本加速器学会 2019 年度決算報告

収入の部

2019年4月1日～2020年3月31日

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
会費収入		8,488,000	8,544,000	8,758,000
正会員	当年度分(140件+前年度前受金683件)×6,000円, 過年度分31件×6,000円	5,016,000	5,172,000	5,124,000
学生会員	当年度分(21件+前年度前受金27件)×2,000円, 過年度分10件×2,000円	84,000	84,000	116,000
賛助会員	当年度分(70口+前年度前受金255口)×10,000円, 過年度分15口×10,000円	3,300,000	3,200,000	3,400,000
購読会員	当年度分9口×10,000円, 過年度分2口×10,000円	80,000	80,000	110,000
書店経由購読会員	当年度分1口×8,000円	8,000	8,000	8,000
事業収入		17,925,817	15,187,500	17,891,486
会誌販売収入	学会誌売上	21,600	10,000	2,200
会誌別刷収入	「加速器」Vol. 16, No. 1～No. 4	280,797	100,000	728,615
会誌広告収入	「加速器」Vol. 16, No. 1～No. 4	1,917,000	1,750,000	1,129,240
学術的会合収入	第16回年会	15,706,420	13,327,500	16,031,431
雑収入		22,636	0	81
受取利息		66	0	81
還付金		22,570	0	0
その他		0	0	0
収入合計		26,436,453	23,731,500	26,649,567

支出の部

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
学会誌出版費		4,409,962	4,898,000	5,119,430
会誌発行費	印刷・原稿管理・校正・発送・編集	4,329,448	4,848,000	4,943,872
別刷印刷費	別刷り印刷・発送	80,514	50,000	175,558
運営費		16,944,794	16,407,100	16,986,973
学術的会合支出	第16回年会開催費	16,081,465	15,347,100	16,264,597
学会賞費	賞状用紙等	0	10,000	20,196
会場費	会議室使用料	126,351	150,000	61,560
旅費	各委員会旅費	736,978	900,000	640,620
事務業務費		5,748,188	4,493,326	4,385,899
基本業務委託費		621,000		0
	国際文献社基本料金	3,429,745	3,500,000	3,592,019
	法人税・消費税申告	756,000	187,000	183,600
	移転準備費用(初年度のみ)	378,000	0	0
基本以外・超過分	(以下の項目は超過分に含むものとして評価)	563,443	700,000	510,153
通信費	サーバー使用料等	82,492		62,251
	封筒印刷費	135,540		122,500
備品費		0		0
事務用品費		0		0
消耗品費		5,760		0
運送費	宅急便等	142,228		114,106
事務局旅費	会議・打ち合わせ出席時の旅費実費	25,500		0
支払手数料	ドメイン使用料	24,948		8,994
振込手数料	銀行振込, 年会会期以外のカード決済, 受取人払時の手数料	146,975		180,702
他団体発行賞への学会推薦対応		0		21,600
選挙費	会長・評議員選挙	0	106,326	100,127
その他		705,300	450,000	173,688
年会特別講演撮影		162,000	200,000	0
オーラルヒストリー編纂		0	100,000	36,288
租税公課	法人税, 消費税	543,300	150,000	137,400
その他		0	0	0
支出合計		27,808,244	26,248,426	26,665,990

収支差額・剰余金

科 目	細 目	前期実績	当期予算案	当期実績
収支差額		-1,371,791	-2,516,926	-16,423
前期繰越剰余金		7,441,055	6,069,264	6,069,264
次期繰越剰余金		6,069,264	3,552,338	6,052,841

2019 年度貸借対照表

2020 年 3 月 31 日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
現金および預金		前受金	
三菱UFJ銀行残高	3,914,002	正会員会費(2020年度699件×6,000円, 2021年度1件×6,000円)	4,200,000
郵便振替貯金残高	3,493,363	学生会員会費(33件×2,000円)	66,000
みずほ銀行(年会用口座)残高	3,388,991	賛助会員会費(280口×10,000円)	2,800,000
手持ち現金残高	0	書店購読会員会費(1口×8,000円)	8,000
未収金	990,990	未払金	988,485
前払金	2,333,980	預り金	
		会費返金分	6,000
		前期繰越剰余金	6,069,264
		当期収支差額	-16,423
合計	14,121,326	合計	14,121,326

2019 年度資産負債明細

2020 年 3 月 31 日現在

資 産 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
現金および預金	14,121,326	三菱UFJ銀行残高	3,914,002
		郵便振替貯金残高	3,493,363
		みずほ銀行(年会用口座)残高	3,388,991
		手持ち現金残高	0
		未収金	990,990
		前払金	2,333,980
合計	14,121,326	合計	14,121,326

負 債 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
会費前受金(3月31日現在入金分)	7,074,000	正会員会費(2020年度699件×6,000円, 2021年度1件×6,000円)	4,200,000
		学生会員会費(33件×2,000円)	66,000
		賛助会員会費(280口×10,000円)	2,800,000
		書店購読会員会費(1口×8,000円)	8,000
未払金(3月31日現在)	988,485	国際文献社 1-3月分委託費	988,485
預り金(3月31日現在)	6,000	会費返金分	6,000
合計	8,068,485	合計	8,068,485

剰 余 金 の 部			
科 目	金 額	細 目	金 額
前期繰越剰余金			6,069,264
当期収支差額			-16,423
合計			6,052,841

剰余金処分計算書

前期繰越剰余金	6,069,264
当期収支差額	-16,423
次期繰越剰余金	6,052,841

監査報告書

日本加速器学会の2019年4月1日~2020年3月31日の決算書について、監査の結果、正確かつ適正であることを認めます。

2020年5月16日

2020年5月16日

日本加速器学会

日本加速器学会

監事 早川 建 (印)

監事 大熊 春夫 (印)

日本加速器学会 2020 年度予算

2020年4月1日～2021年3月31日

(単位：円)

収入の部

科 目	細 目	2020年度予算(A)	2019年度実績(B)	増減高(A-B)
会費収入		8,616,000	8,758,000	-142,000
正会員	870名×6,000円	5,220,000	5,124,000	96,000
学生会員	54名×2,000円	108,000	116,000	-8,000
賛助会員	320口(64社)×10,000円	3,200,000	3,400,000	-200,000
購読会員	8口×10,000円	80,000	110,000	-30,000
書店経由購読会員	1口×8,000円	8,000	8,000	0
事業収入		15,530,000	17,891,486	-2,361,486
会誌販売収入	学会誌売上	3,000	2,200	800
会誌別刷収入	「加速器」Vol. 17, No. 1～No. 4	200,000	728,615	-528,615
会誌広告収入	「加速器」Vol. 17, No. 1～No. 4	1,000,000	1,129,240	-129,240
学術的会合収入	第17回年会	14,327,000	16,031,431	-1,704,431
雑収入		0	81	-81
受取利息		0	81	-81
その他		0	0	0
その他		0	0	0
その他		0	0	0
収入合計		24,146,000	26,649,567	-2,503,567

支出の部

科 目	細 目	2020年度予算(A)	2019年度実績(B)	増減高(A-B)
学会誌出版費		4,900,000	5,119,430	-219,430
会誌発行費	印刷・原稿管理・校正・発送	4,800,000	4,943,872	-143,872
別刷印刷費	別刷り印刷・発送	100,000	175,558	-75,558
運営費		14,998,000	16,986,973	-1,988,973
学術的会合支出	第17回年会開催費	14,097,600	16,264,597	-2,166,997
学会賞費	賞状用紙等	20,400	20,196	204
会場費	会議室使用料	80,000	61,560	18,440
旅費	各委員会旅費	800,000	640,620	159,380
事務業務費		4,417,300	4,385,899	31,401
基本業務委託費	国際文献社基本料金	3,630,000	3,592,019	37,981
基本以外	法人税・消費税申告(税理士, 国際文献社) (予算案では以下の内訳を一括して評価)	187,300	183,600	3,700
		600,000	510,153	89,847
通信費	サーバー使用料等		62,251	
	封筒印刷費		122,500	
備品費			0	
事務用品費			0	
消耗品費	コピー用紙, 役員名刺代など		0	
運送費	宅急便等		114,106	
事務局旅費	会議・打ち合わせ出席時の旅費実費		0	
支払手数料	ドメイン使用料		8,994	
振込手数料	銀行振込, 年会会期以外のカード決済, 受取人払時の手数料		180,702	
他団体発行賞への学会推薦対応			21,600	
選挙費	会長・評議員選挙	0	100,127	-100,127
その他		340,000	173,688	166,312
年会特別講演撮影	撮影, 編集, 公開	100,000	0	100,000
オーラルヒストリー編纂	聞き取り書き起こし, 出張費	100,000	36,288	63,712
租税	法人税, 消費税(2019年度分)	140,000	137,400	2,600
その他		0	0	0
支出合計		24,655,300	26,665,990	-2,010,690

収支差額・剰余金

科 目	細 目	2020年度予算(A)	2019年度実績(B)	増減高(A-B)
収支差額		-509,300	-16,423	-492,877
前期繰越剰余金		6,052,841	6,069,264	-16,423
次期繰越剰余金		5,543,541	6,052,841	-509,300